

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎医学部医学科志願状況

□前期は微増だが2年連続増加、後期も微増だが3年ぶりに増加

〔志願者数推移〕

		2022年度	増減数	指数	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度
募集人員	前期	3,636	+32	101	3,604	3,597	3,644	3,676	3,699	3,683	3,653	3,614
	後期	363	-45	89	408	454	524	539	541	556	586	611
	合計	3,999	-13	100	4,012	4,049	4,168	4,215	4,240	4,239	4,239	4,225
志願者数	前期	15,087	+314	102	14,773	14,742	16,390	17,064	18,093	18,342	18,999	19,919
	後期	7,255	+145	102	7,110	7,404	9,081	8,969	9,927	10,073	11,047	12,586
	合計	22,342	+459	102	21,883	22,146	25,471	26,033	28,020	28,415	30,046	32,505
志願倍率	前期	4.15			4.10	4.10	4.50	4.64	4.89	4.99	5.20	5.51
	後期	19.99			17.43	16.31	17.33	16.64	18.35	18.12	18.85	20.60
	合計	5.59			5.45	5.47	6.11	6.18	6.61	6.70	7.09	7.69

医学部医学科(以下「医学科」)全体の志願者数は、後期募集廃止大学の増加、医学科入学定員増加による既卒受験生の減少などの減少要因がありましたが、コロナ禍で医学への関心の高まりと共に、固い志望動機を持つ医学科志望者の他系統への志望変更が抑制された結果、459人(102)の微増となりました。

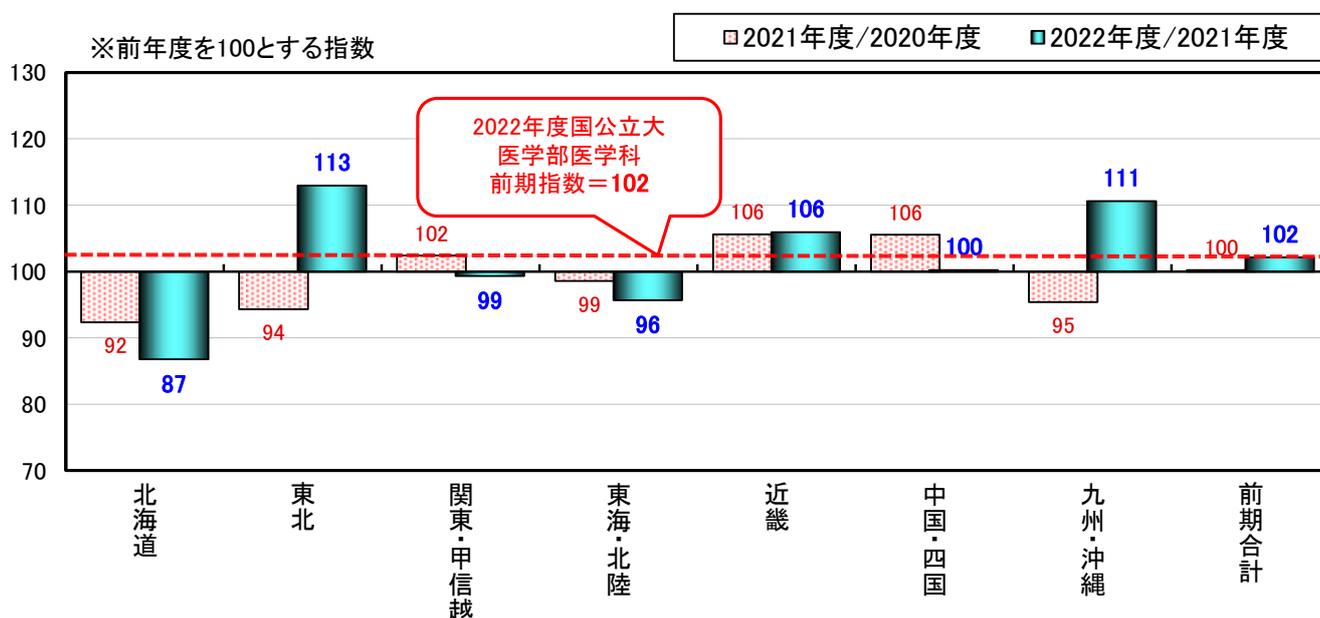
日程別では、前期は314人(102)の微増ですが、2年連続増加。後期も145人(102)の微増で3年ぶりに増加しました。今年度後期募集を廃止した富山大を除いた大学合計での比較では、(108)と増加しました。この結果、志願倍率は前期が4.10倍→4.15倍と0.05ポイントアップに留まりましたが、後期は募集人員が10%以上減少したこともあって17.43倍→19.99倍と2.56ポイントアップとなり、競争が厳しくなりました。

共通テストの数学の平均点大幅ダウンも志願者数に大きな影響がありました。共通テストの数学の配点比率が20%未満なのは8大学ですが、そのうち5大学で志願者数が増加しました。具体的には、滋賀医科大は155人(162)、和歌山県立医科大は52人(121)、島根大38人(110)、香川大は138人(136)、熊本大は115人(135)と増加しました。

□前期の地区別では、近畿は2年連続やや増加、東北、九州・沖縄が反動で増加

〔地区別志願者指数〕

<前期日程>



前期合計では 314 人(102)の微増でした。地区別では、近畿(106)は 2 年連続やや増加で、この地区での医学科人気の高さがうかがえます。東北(113)、九州・沖縄(111)は前年度の反動で増加しました。一方で、北海道(87)は 2 年連続減少でコロナ禍による遠距離移動敬遠の影響が続いています。東海・北陸(96)も前年の微減に続きやや減少、関東・甲信越(99)は反動で微減でした。

- 北海道(87)：旭川医科大(64)は大幅減少で 4 年連続増加なし。志願者数は 200 人を下回った。北海道大(93)がやや減少。札幌医科大(102)は微増。
- 東北(113)：山形大(160)は 5 年連続減少の反動で大幅増加。弘前大(141)も 2 年連続減少の反動で大幅増加。一方で、秋田大(90)は前年度大幅減少に続いて 2 年連続減少、福島県立医科大(90)は前年度大幅増加の反動で減少。
- 関東・甲信越(99)：群馬大(169)は 2 年連続減少の反動で激増、新潟大(113)は 2 年連続減少の反動で増加、東京大(109)は増加で 2 年ぶりに志願者数が 400 人を上回った。一方で、信州大(80)、筑波大(82)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少、千葉大(87)は 3 年連続増加の反動で減少。横浜市立大(88)は減少したが、この要因は第 1 段階選抜基準が共通テスト 1000 点満点中 750 点以上という基準点と志願倍率約 3 倍という 2 つの基準を併用したが、共通テストの平均点の大幅ダウンにより、従来は考えられなかった基準点をクリアできない志望者がいたことが大きく、さらに理科配点が重くなったことにより現役生に敬遠された。東京医科歯科大(96)はやや減少で 2 年連続減少。
- 東海・北陸(96)：福井大(192)は前年度大幅減少の反動で激増、岐阜大(131)は前年度減少の反動と前期募集人員増加で大幅増加。一方で、名古屋大(43)は第 1 段階選抜基準が共通テスト 900 点満点中 700 点以上という基準点としたが共通テスト平均点の大幅ダウンにより、従来は考えられなかった基準点をクリアできない志望者がいたことに加えて、出願締切日時点では前年度中止された面接の実施が予定されていたこと、2 年連続増加の反動などが重なったことにより半減以上の大幅減少。金沢大(76)は 2 年連続増加の反動で大幅減少、名古屋市立大(79)は第 1 段階選抜基準が共通テスト 550 点満点中 390 点以上と、共通テスト後に基準点を概ね 73%以上から概ね 71%以上に引き下げたが、それでも共通テスト平均点の大幅ダウンにより、従来は考えられなかった基準点をクリアできない志望者がいたことに加えて、2 年連続増加の反動などが重なったことにより大幅減少。浜松医科大(80)は募集人員枠の変更があったが、2 年連続大幅減少。
- 近畿(106)：滋賀医科大(162)は激増で 2 年連続増加、和歌山県立医科大(121)は 2 年連続大幅増加、大阪大(112)は前年度大幅減少の反動と共通テストの平均点ダウンによって個別試験重視の配点が影響して増加、京都府立医科大(104)はやや増加で 2 年連続増加。一方で、大阪公立大(68)は旧大阪市立大との比較で前年度増加の反動で大幅減少、京都大(89)は前年度の反動に加えて共通テスト平均点の大幅ダウンにおける慎重な出願により減少。結果的には、志願倍率は 2.6 倍と第 1 段階選抜実施予告倍率を下回った。奈良県立医科大(93)はやや減少で 3 年連続減少。
- 中国・四国(100)：岡山大(150)は共通テストの配点が 900 点→500 点、個別試験の配点が 1,200 点→1,100 点と個別試験重視に変更になったことから共通テスト失敗組に狙われたことと、前年度やや減少の反動から大幅増加、香川大(136)は前年度大幅増加も後期廃止による募集人員増加で志願倍率が下がったことで、大幅増加で 4 年連続増加。広島大(125)は前年度微増に引き続き大幅増加、島根大(110)は前年度減少の反動で増加。一方で、鳥取大(60)は大幅減少で 4 年連続減少、山口大(70)は前年度微減に引き続き大幅減少、愛媛大(73)は 3

年連続増加の反動で大幅減少、徳島大(81)は前年度大幅増加の反動で大幅減少となり、前年度の反動による増減が継続、高知大(81)は2年連続大幅減少。

- 九州・沖縄(111)：大分大(142)は3年連続減少の反動で大幅増加、熊本大(135)は募集人員減少だが2年連続減少の反動で大幅増加、九州大(111)、長崎大(108)、琉球大(108)はいずれも2年連続増加、鹿児島大(107)は2年連続減少の反動は小さくやや増加。一方で、宮崎大(85)は前年度大幅増加の反動と、募集人員減少、個別試験に理科追加の負担増が重なり大幅減少、佐賀大(96)はやや減少で4年連続減少。

<後期日程>

後期合計では143人(102)の微増で3年ぶりに増加しました。

地区別では、1大学のみ地区では、旭川医科大のみ募集の北海道(221)は前年度大幅減少の反動で2倍以上の激増。山口大のみ募集の中国・四国(212)は2年連続減少の反動で倍増以上の激増。奈良県立医科大のみ募集の近畿(148)は前年度減少の反動で大幅増加し、志願者数が1,300人を上回りました。

複数大学の募集がある4地区では増減が目立ったのは、東北(133)、関東甲信越(133)は大幅増加。一方で、東海・北陸(49)は大幅減少、九州・沖縄(92)は減少。

- 東北(133)：山形大(183)は2年連続減少の反動で激増。秋田大(111)は2年連続増加。

- 関東・甲信越(133)：山梨大(153)、東京医科歯科大(112)はいずれも2年連続減少の反動で増加。一方で、千葉大(93)は募集人員の減少と2年連続増加の反動でやや減少。

- 東海・北陸(49)：福井大(124)は前年度大幅減少の反動と近隣の富山大の後期廃止による流入で大幅増加、三重大(116)は2年連続大幅増加。一方で、岐阜大(35)は前年度の激増の反動と募集人員減少で激減、浜松医科大(38)は2年連続激増の反動で激減、名古屋大(70)は第1段階選抜を基準点方式に変更したことで、共通テスト平均点の大幅ダウンの影響を大きく受けて、大幅減少で3年連続減少。

- 九州・沖縄(92)：鹿児島大(129)は大幅増加で2年連続増加。一方で、宮崎大(71)は第1段階選抜基準の緩和や個別試験から理科が除外されたが、前年度増加の反動と募集人員減少で大幅減少、琉球大(85)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、佐賀大(95)は2年連続増加の反動は小さくやや減少。

〔大学別志願状況〕

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2022年度		2021年度		志願倍率			コメント前
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2022年度	2021年度	2020年度	
北海道	旭川医科大	前		550	350	-101	64	40	178	40	279	4.5	7.0	6.1	大幅減少で4年連続増加なし。志願者数は200人を下回った。
		後		600	250	+121	221	8	221	8	100	27.6	12.5	35.9	志願者数は前年度大幅減少の反動で2倍以上の激増。志願倍率も12.5倍→27.6倍に大幅アップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は43.9%だった。
	北海道大	前		300	525	-23	93	97	315	101	338	3.2	3.3	3.6	やや減少で2年連続減少。 ※募集人員はフロンティア入試の欠員分の5人を含む(2021年度4人)。
	札幌医科大	前		700	700	-1	98	91	51	20	52	3.1	2.6	2.9	一般枠は微減で、先進研修連携枠はやや増加。募集人員増で志願倍率は3.7倍→3.1倍にダウン。 ※募集人員は学校推薦型選抜の欠員分の16人を含む。
		先進研修連携枠				+7	103			229	55	222		4.0	4.8
東北	弘前大	前		1000	500	+85	151	50	253	50	168	5.1	3.4	4.9	<変更点>募集人員:(青森県定着枠)15人⇒20人 一般枠、青森県定着枠ともに、2年連続減少の反動で大幅増加。青森県定着枠は募集人員増で志願倍率は6.4倍→6.0倍にダウン。
		青森県定着枠				+23	124	20	119	15	96	6.0	6.4	5.5	
	東北大	前		250	950	-1	100	77	242	77	243	3.1	3.2	3.3	志願者数は前年度並。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は95.5%だった。
	秋田大	前		550	400	-24	90	55	220	55	244	4.0	4.4	6.6	前年度の大幅減少に続いて2年連続減少。志願倍率も4.4倍→4.0倍にダウン。
		後		700	300	+28	109	20	340	20	312	17.0	15.6	16.9	一般枠は増加で、志願倍率は15.6倍→17.0倍にアップ。2年目の秋田県地域枠は大幅増加で、志願倍率も9.5倍→12.5倍にアップ。
	山形大	前		900	700	+136	164	65	350	65	214	5.4	3.3	4.2	5年連続減少の反動で大幅増加。一般枠は激増で、志願倍率も3.3倍→5.4倍にアップ。別枠募集2年目の地域枠も3.4倍→4.5倍にアップ。
地域枠					+9	133	8	36	8	27	4.5	3.4			
福島県立医科大	前		650	660	-33	89	49	277	50	310	5.7	6.2	3.9	<変更点>募集人員:50人⇒49人 前年度大幅増加の反動で減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は86.0%だった。	
	地域枠				-11	91	30	109	30	120	3.6	4.0	2.4		
筑波大	前		900	1400	-25	84	44	133	44	158	3.0	3.6	2.4	<変更点>出願資格: <地域枠>(茨城県内対象)保護者が茨城県内に1年以上居住している者 ⇒<地域枠>(茨城県内対象)保護者が茨城県内に3年以上居住している者 一般枠は前年度大幅増加の反動で大幅減少。地域枠は茨城県枠は前年度と同じだったが全国枠は大幅減少で志願倍率も1.8倍→0.6倍にダウン。	
		茨城県枠				±0	100	8	30	8	30	3.8	3.8		4.4
		全国枠				-12	33	10	6	10	18	0.6	1.8		1.7
群馬大	前		450	450	+120	173	65	284	65	164	4.4	2.5	2.6	一般枠は2年連続減少の反動で激増。志願倍率も2.5倍→4.4倍にアップ。地域医療枠は前年度大幅減少の反動で大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は67.6%だった。	
		地域医療枠				+10	142	6	34	6	24	5.7	4.0		5.5
関東・甲信越	千葉大	前		450	1000	-74	78	82	257	82	331	3.1	4.0	3.4	<変更点>募集人員:(地域枠)15人⇒20人 一般枠は大幅減少、地域枠は激増と対照的。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は一般枠で95.7%、地域枠で84.5%だった。
		地域枠				+27	161	20	71	15	44	3.6	2.9	5.7	
	後		450	1000	-32	93	15	401	15	388	26.7	25.9	18.7	<変更点>募集人員:(地域枠)5人⇒0人 やや減少だが、地域枠廃止で募集人員減となり、志願倍率は21.7倍→26.7倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は64.1%だった。	
地域枠								5	45		9.0	18.6			
東京大	前		110	440	+36	109	97	421	97	385	4.3	4.0	4.3	前年度やや減少の反動で増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は80.8%だった。	
東京医科歯科大	前		180	360	-13	96	79	303	79	316	3.8	4.0	4.2	やや減少で2年連続減少。	
	後		500	200	+18	112	10	168	10	150	16.6	15.0	16.8	2年連続減少の反動で増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は72.3%だった。	

2022年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2022年度		2021年度		志願倍率			コメント前	
				共通	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2022年度	2021年度	2020年度		
関東・甲信越	横浜市立大	前		1000	1400	-32	88	58	228	58	260	3.3	3.7	3.2	<変更点><個>数<400>+理2<400>+外<400> =総点<1,200> ⇒数<400>+理2<600>+外<400> =総点<1,400> 第1段階選抜基準が共通テスト1,000点満点中750点以上という基準点と志願倍率約3倍という2つの基準を併用したが、共通テストの平均点大幅ダウンにより基準点をクリアできない志願者がいたこと、理科の配点変更が重なったことにより減少。2段階選抜が実施され、合格最低点は741.4点と基準が緩和されたが、第1段階選抜の合格率は79.4%だった。	
			地域枠					10		10						
			診療科枠					2		2						
	新潟大	前		750	1200	+40	113	80	347	80	307	4.3	3.8	4.3	2年連続減少の反動で増加。志願倍率も3.8倍→4.3倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は92.2%だった。	
	山梨大	後		1100	1200	+564	153	90	1621	90	1057	18.0	11.7	12.3	2年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率も11.7倍→18.0倍にアップ。	
	信州大	前		450	600	-93	80	95	383	95	476	4.0	5.0	3.9	前年度大幅増加の反動で大幅減少。前年度の反動による増減が継続。	
東海・北陸	富山大	前		900	700	+4	102	70	218	60	214	3.1	3.6	4.1	<変更点>募集人員:60人⇒70人 2年連続減少の反動は小さく微増に留まった。後期廃止による募集人員増で志願倍率は3.6倍→3.1倍にダウン。	
		後							20	378		18.9	15.1	<変更点>募集人員:20人⇒0人		
		金沢大	前		450	1050	-76	76	84	244	84	320	2.9	3.8	3.7	2年連続増加の反動で大幅減少。
		福井大	前		900	700	+177	192	55	370	55	193	6.7	3.5	4.7	前年度大幅減少の反動で激増。志願倍率も3.5倍→6.7倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は74.3%だった。
			後		450	220	+77	124	25	397	25	320	15.9	12.8	15.7	前年度大幅減少の反動と、富山大の後期廃止による流入で大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は69.3%だった。
		岐阜大	前		900	1200	+109	131	45	466	37	357	10.4	9.6	11.1	<変更点>募集人員:37人⇒45人 <共通>:国<100>+歴公<100>+数2<200> +理2<200>+外<200> =総点<800> ⇒国<200>+歴公<100> +数2<200>+理2<200> +外<200>=総点<900> 前年度減少の反動と募集人員増加で大幅増加。
			後		450	1200	-736	35	10	405	25	1141	40.5	45.6	25.8	<変更点>募集人員:25人⇒10人 <共通>:国<50>+歴公<50>+数2<100> +理2<100>+外<100> =総点<400> ⇒国<100>+歴公<50> +数2<100>+理2<100> +外<100>=総点<450> 前年度激増と、募集人員減少で65%の激減。募集人員減少だが、志願倍率も45.6倍→40.5倍にダウン。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は37.3%だった。
		浜松医科大	前		450	700	-50	83	68	242	64	292	3.6	4.6	4.7	<変更点>募集人員:(一般枠)前>64人、後>15人 ⇒前>68人、後>14人 (地域医療枠)前>11人 ⇒前>7人、後>1人 2年連続大幅減少。特に地域枠は41%減少。
		地域枠				-16	59	7	23	11	39	3.0	3.5	8.6		
		後		900	350	-222	38	14	127	15	357	9.1	23.8	14.1	2年連続激増の反動で激減。地域枠が復活したが、志願者数は2020年度の3分の1。	
		地域枠						1	8			8.0		24.0		

2022 年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2022年度		2021年度		志願倍率			コメント前
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2022年度	2021年度	2020年度	
東海・北陸	名古屋大	前		900	1650	-195	43	90	150	90	345	1.7	3.8	3.3	<p><変更点>2段階選抜新規実施: 共通テストの成績が900点満点中700点以上の者 〈個〉国+数+理2+外+書類審査 ⇒国+数+理2+外+面 ※コロナ禍対応として出願締切後(2/9)、面→書類審査へ 第1段階選抜基準が共通テスト900点満点中700点以上という基準点としたが、共通テストの平均点大幅ダウンにより基準点をクリアできない志願者がいたことと、出願締切時点では面接の実施が予定されていたこと、2年連続大幅増加の反動などが重なったことにより半減以上の大幅減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は90.7%だった。</p>
		後	愛知県内	900	0	-16	70	5	38	5	54	7.6	10.8	11.0	
	三重大	前		600	700	-11	97	70	390	70	401	5.2	5.3	4.0	2年連続増加の反動は小さくやや減少に留まった。
			医療枠					5		5					
		後		600	300	+30	116	10	213	10	183	21.3	18.3	12.1	2年連続大幅増加、志願倍率も18.3倍→21.3倍にアップ。
	名古屋市立大	前		550	1200	-44	79	60	164	60	208	2.7	3.5	2.8	<p><変更点>第1段階選抜基準変更: 共通テストの合計が550点満点中概ね75%以上 ⇒共通テストの合計が550点満点中概ね73%以上 ※概ね73%→概ね71%以上にさらに緩和(1月20日発表) 第1段階選抜基準が共通テスト550点満点中390点以上という基準点を共通テスト後に概ね73%→概ね71%に引き下げたが、平均点大幅ダウンにより基準点をクリアできない志願者がいたことと、2年連続増加の反動などが重なったことにより大幅減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は92.1%だった。</p>
近畿	滋賀医科大	前		600	600	+98	150	55	295	55	197	5.4	3.6	3.2	前年度5年連続減少の反動で増加したが、さらに大幅増加で2年連続増加。3年目の地域枠は倍増以上に志願倍率も10.6倍→22.0倍の大幅アップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は86.4%だった。
			地域枠	600	600	+57	208	5	110	5	53	22.0	10.6	13.6	
	京都大	前		250	1000	-34	89	106	265	105	299	2.5	2.8	2.6	<p><変更点>第1段階選抜基準変更: 約3倍⇒共通テストの合計が900点満点中630点以上の者のうちから、募集人員の約3倍まで 前年度の反動に加えて、共通テストの平均点大幅ダウンによる慎重な出願により志願者が減少。 ※募集人員は特色入試の欠員分の4人を含む(2021年度3人)。</p>
	大阪大	前		500	1500	+27	112	95	260	95	233	2.7	2.5	2.9	前年度大幅減少の反動と共通テストの平均点大幅ダウンによって個別試験重視の配点が影響して増加。
	神戸大	前		360	450	-14	95	92	247	92	261	2.7	2.8	2.7	前年度3年連続減少からやや増加したが再び減少し、やや減少。共通テストの配点比が比較的高いことも影響。
	京都府立医科大	前		450	600	+10	104	100	287	100	277	2.9	2.8	2.5	やや増加で2年連続増加。
	大阪公立大 ※2021年度以前は旧大阪市立大	前		650	800	-72	68	75	153	75	225	1.9	2.8	2.6	<p><変更点>旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合 旧大阪市立大との比較で、前年度増加の反動で大幅減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は88.9%だった。</p>
	奈良県立医科大	前		450	450	-10	93	22	143	22	153	6.5	7.0	7.4	やや減少で3年連続減少。
		後		300	900	+423	148	53	1311	53	888	24.7	16.8	18.3	前年度減少の反動と近畿地区で唯一の後期募集で狙われて大幅増加。志願倍率も16.8倍→24.7倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は57.1%だった。
	和歌山県立医科大	前		600	700	+52	121	64	295	64	187	3.7	2.9	2.0	2年連続大幅増加で、志願倍率も2.2倍→3.1倍→3.7倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は88.1%だった。
		医療枠					15		15	56	3.7	2.7			

2022 年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2022年度		2021年度		志願倍率			コメント前	
				共通	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2022年度	2021年度	2020年度		
中国	鳥取大	前		900	700	-145	60	58	214	58	359	2.7	4.5	4.9	4年連続減少で、志願倍率も11.1倍→8.8倍→4.9倍→4.5倍→2.7倍とダウン。	
			鳥取県枠					14		14						
			兵庫県枠					2		2						
			島根県枠					5		5						
	島根大	前		700	460	+27	107	55	390	55	363	7.1	6.6	7.8	一般枠は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加に留まった。定着枠は前年度やや増加に引き続き大幅増加で、志願倍率も8.7倍→9.0倍→12.7倍にアップ。	
			定着枠			+11	141	3	38	3	27	12.7	9.0	8.7		
	岡山大	前		500	1100	+181	150	98	540	98	359	5.5	3.7	3.8	<変更点><共通>国<200>+歴公<100>+数2<200> +理2<200>+外<200> =総点<900> ⇒国<100>+歴公<100> +数2<100>+理2<100> +外<100>=総点<500> <個>数<400>+理2<400>+外<400> =総点<1,200> ⇒数<400>+理2<300>+外<400> =総点<1,100> 共通テストの配点が900点→500点、個別試験の配点が1,200点→1,100点と個別試験重視に変更となったことから共通テスト失敗組に狙われたこと、前年度やや減少の反動で大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は70.9%だった。	
			広島大	前	900	1800	+126	125	90	621	90	495	6.9	5.5		5.4
			山口大	前	900	600	-92	70	55	214	55	306	3.9	5.6		5.6
	山口大	後		900	500	+238	212	7	450	7	212	45.0	21.2	21.4	2年連続減少の反動と中国・四国地区で唯一の後期募集で狙われて倍増以上の増加。志願倍率も21.2倍→45.0倍に大幅アップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は33.3%だった。	
地域枠							3		3							
四国	徳島大	前		900	400	-41	81	64	171	64	212	2.7	3.3	2.4	前年度大幅増加の反動で大幅減少。前年度の反動による増減が継続。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は93.6%だった。	
	香川大	前		700	700	+138	136	70	520	70	382	6.6	4.8	4.9	前年度大幅増加も後期廃止による募集人員増加で志願倍率が下がったことで、大幅増加で4年連続増加。志願倍率も4.8倍→6.6倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は60.8%だった。	
			地域枠					9		9						
	愛媛大	前		450	700	-142	73	55	389	55	531	7.1	9.7	7.7	3年連続増加の反動で大幅減少。志願者数も400人を下回った。	
高知大	前		900	1000	-44	84	55	225	55	269	4.1	4.9	6.8	2年連続大幅減少。志願倍率も一般枠で6.8倍→4.9倍→4.1倍、地域枠で5.0倍→5.0倍→2.6倍にダウン。		
		地域枠					5	13	5	25	2.6	5.0	5.0			
九州・沖縄	九州大	前		450	700	+31	111	110	307	110	276	2.8	2.5	2.5	前年度微増で引き続き増加し、志願者数は300人を上回った。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は89.6%だった。	
	佐賀大	前		630	400	-10	96	50	232	50	242	4.6	4.8	5.4	やや減少で4年連続減少。	
			後		630	280	-12	95	10	227	10	239	22.7	23.9		21.5
	長崎大	前		450	800	+35	108	76	457	76	422	6.0	5.6	3.7	前年度大幅増加に引き続き増加で、志願倍率も3.7倍→5.6倍→6.0倍とアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は83.2%だった。	
	熊本大	前		400	800	+115	135	87	447	90	332	5.1	3.7	5.4	2年連続減少の反動で大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は87.7%だった。	
	天分大	前		450	550	+75	142	55	253	55	178	3.9	2.7	4.4	3年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率も2.7倍→3.9倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は77.9%だった。	
地元枠							10		10							

2022 年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2022年度		2021年度		志願倍率			コメント前
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2022年度	2021年度	2020年度	
九州・沖縄	宮崎大	前		900	600	-44	85	45	252	50	296	5.6	5.9	4.5	<変更点>募集人員:50人⇒45人 <個>数+外+面 ⇒数+理2+外+面 ※理:物or化or生 前年度大幅増加の反動と、募集人員減少、個別試験科目の負担増が重なり大幅減少。
		後		900	150	-115	71	15	282	20	397	18.8	19.9	18.0	
	鹿児島大	前		900	920	+17	107	69	266	69	249	3.9	3.6	4.8	2年連続減少の反動は小さく、やや増加に留まった。
		後		900	320	+84	129	23	375	23	291	16.3	12.7	11.3	大幅増加で2年連続増加。志願倍率も11.3倍⇒12.7倍⇒16.3倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は49.1%だった。
	琉球大	前		900	800	+26	108	70	340	70	314	4.9	4.5	3.8	2年連続増加で、志願倍率も3.8倍⇒4.5倍⇒4.9倍にアップ。
		後		1000	300	-61	85	25	352	25	413	14.1	16.5	12.8	前年度大幅増加の反動で大幅減少。前年度の反動による増減が継続。

〔志願者数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
広島大	621 (90)	山梨大	1621 (90)
岡山大	540 (98)	奈良県立医科大	1311 (53)
香川大	520 (79)	山口大	450 (10)
岐阜大	466 (45)	岐阜大	405 (10)
長崎大	457 (76)	千葉大	401 (15)

〔志願者数が少なかった大学〕

前期日程		後期日程	
奈良県立医科大	143 (22)	名古屋大	38 (5)
名古屋大	150 (90)	浜松医科大	135 (15)
大阪公立大	153 (80)	東京医科歯科大	168 (10)
名古屋市立大	164 (60)	三重大	213 (10)
筑波大	169 (62)	旭川医科大	221 (8)

※()内は募集人員。一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の志願者数を掲載。

※大阪公立大は旧大阪市立大との比較

〔増加数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
岡山大	+181	山梨大	+564
福井大	+177	奈良県立医科大	+423
滋賀医科大	+155	山口大	+238
山形大	+145	山形大	+122
香川大	+138	旭川医科大	+121

〔減少数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
名古屋大	-195	岐阜大	-736
鳥取大	-145	浜松医科大	-222
愛媛大	-142	宮崎大	-115
旭川医科大	-101	琉球大	-61
信州大	-93	千葉大	-32

※一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の志願者数で増減を算出。

〔志願倍率が高かった大学〕

前期日程		後期日程	
岐阜大	10.4	山口大	45.0
島根大	7.4	岐阜大	40.5
愛媛大	7.1	旭川医科大	27.6
広島大	6.9	千葉大	26.7
滋賀医科大	6.8	奈良県立医科大	24.7

〔志願倍率が低かった大学〕

前期日程		後期日程	
名古屋大	1.7	名古屋大	7.6
大阪公立大	1.9	浜松医科大	9.0
京都大	2.5	琉球大	14.1
徳島大	2.7	福井大	15.9
神戸大	2.7	秋田大	16.3
鳥取大	2.7	鹿児島大	16.3
筑波大	2.7		
名古屋市立大	2.7		
大阪大	2.7		

※一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の募集人員、志願者数で算出。

※大阪公立大は旧大阪市立大との比較